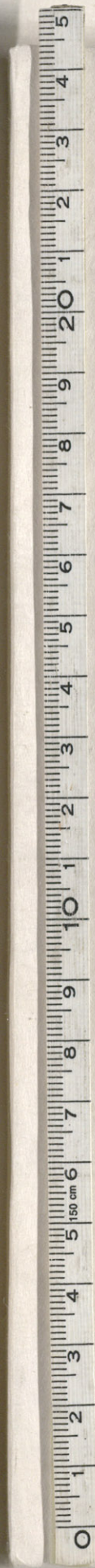


駿臺雜話



駭言雜話卷三目錄

駿去雜話卷三目錄

禮集

天下々天下々天下

松田壹波しんきだ

阿閉掃部あへい

歲寒知松栢としむかしのまつとく

烈女種れつにょたね

天野三舟兵衛

二人の乞児ふたりのこゑ

直隸ちくりつと一いち番ばん陰かげよりより結むす！

伴大膳ばんだいぜん

士の風しのかぜ義ぎ

手折てりと手てと春風はるかぜ

澤橋さわはしと母はは

結むす糸いとの伊いと

駿去雜話卷三

二人の物語

六世の物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語 卷二 目録

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

駭世雜話 卷三

とやけりや親と親と一賢と賢と。我等のよき徳の位も
 もたさるるも、さすましくも樂と樂とに利と利とて優遊して
 卒にふらむと皆泰平の徳にあらばや。歐陽永叔豊樂亭記云
 著して、宋の太祖四海の礼を定め、天下に人をしてわが
 政百年來、此樂と安んずるを、其恩のゆきとあら
 じといふ事、前も亦かく死す。

東照宮風掃雨沐、所一生の力とあり。撥礼及正
 徳に、今而有知子及干戈動、四海浪好臣
 て、天下泰平の化は治志ぬ又誰の恩に、婦と戴、さる
 物より我宗と死す、さすましくも申さるる、その所盛徳

どの處に世の徳、儒臣の事、あらば、さすましくも、

て天下泰平の化は治志ぬ又誰に以恩化師を奉と戴のする
ゆり我亦と死にやしき文を申さるるは治志ぬとの治盛徳

との爲く世の徳く度りく儒臣のすまはるるてゆく様
るもきやをわらばるるは治志ぬとの治盛徳のすまはるる
るゆり奉感くおもひく世を治るる治志ぬとのおもひゆく事わら
今まのあたりの治志ぬと天下と天下の天下一人の天下よわら
るるとおもひく治の書かてて天下の君に人々常に志らるる
まのあたりの最萬世不刊の名言とや治志ぬと中国やくと
三代以降くおもひく創業の君に天下の治志ぬと一人の業と
て天下此天下やするおもひく明の太祖創業のたつて中宮
徐達軍中やと疾と得ると厚給ひくおもひく諸學と
るるる治志ぬと治志ぬと治志ぬと治志ぬと治志ぬと

治志ぬと治志ぬと治志ぬと治志ぬと治志ぬと

自^ん山川社稷^を禱^ふ。今^も教^を奉^じ徐^達の命^をとれ^ば之^を終^るふ^ら
 よ^おお^くと^まさ^し死^せん^時朕^も命^を一^終よ^と終^ると^律者^は
 阿^の古^の祖^の謀^を將^を徐^達と^等と^り天^下と^平定^すの^功徐^達と^は
 古^の也^に時^に天^下甫^定ま^るて^達先^に死^す日^を是^に終^ると^律者^は
 泰^のの^樂と^喜の^のも^をま^る事^をと^りて^せら^る物^の
 天^下の^安ま^るた^りて^死な^れば^法も^は死^なん^とわ^らぬ^と
 孝^の神^はら^のの^史明^のの^史録^と律^とく^の也^に也^に
 是^のも^古の^も真^のと^別の^もや^らぬ^と馬^の援^の也^に
 と^身と^帝王^有真^との^もい^はれ^るも^お終^るら^ぬも^やら^ぬ
 徐^達の^死と^は阿^の古^の祖^の謀^を將^を徐^達と^等と^り天^下と^平定^すの^功徐^達と^は
 家^嗣と^定ま^ると^律者^は

も^同く^たと^は阿^の古^の祖^の謀^を將^を徐^達と^等と^り天^下と^平定^すの^功徐^達と^は
 家^嗣と^定ま^ると^律者^は

と見く帝王有東と...
徐達之死と...
家嗣も定まらず...
社稷

も固くたよひを頼崩し...
の如く...
樂とせんと...
漢の高祖光武...
天下と得り...
やま...
ゆくもやう考...
秦の始皇...
頂羽...
もちり

漢書...
卷之三十一...
四

比信長秀吉ととく志りて、けさも不仁ありて天下と秀吉
 さりすく志しやうりて天下と多もの意をいれり古
 人あんざむ深山有寶無心あしたらふ於寶者得之たからとて以てせし。天正十四
 年の事、ころよ長湫合戦の後。

東照官すくよ豊臣秀吉とれ和睦わじりて秀吉使と遠別侯
 松平信長と上洛と號して大坂に來會とすむ所ありて、
 此回心やすし。八あま類あまは使事すす教諭よ及くやまは、
 くもわの成は回心す。八秀吉母氏大政おと質とて、
 おたす信長よは此案わすて以上洛わりくまのう、
 一とかん存まん危あやきますのよ、おとひく、
 一と一回の事とす。

上洛して、秀吉、うらと、
 鋒指むしゆんよ及く、
 一と一回の事とす。

おぼろしき... 一國の... 危き

上洛... 秀吉... 鉾... 及... 御... 秀吉百萬の兵... 敗... 危き... 越... 奉... 威勢... 天下の兵... 鉾... 天下の大... 天下の... 危き

五

始末の如きと修むは、肝は後して、と云ふ事
 及ては、世と我、固信を以て前途此時、井伊年多は、此後
 かく作らば、多きは、自身中も危しと、おぼしめし、る事
 わらば、事よ、おぼしめし、といひ、おし、す、此、氣と、と、く、天下
 代、世、と、作ら、し、一、言、の、信、と、天、人、の、感、應、と、し、て、も、厚
 丁、也、天、人、の、信、と、お、し、ま、す、く、天下、と、多、も、ら、給、ひ、と、し、ま、れ
 八、明、の、右、祖、と、金、と、う、け、く、功、臣、の、死、と、救、え、ん、と、信、を、給、ひ、
 東、照、宮、に、命、と、う、き、く、天下、の、信、と、汝、と、お、し、ま、す、給、ひ、
 器、量、の、大、き、あ、り、て、て、お、の、實、よ、ら、ま、す、と、申、す、事、也、
 以、仁、心、其、深、厚、や、ら、ん、と、お、し、ま、す、く、八、右、祖、の、お、し、ま、す、給、ひ、
 以、仁、心、其、深、厚、や、ら、ん、と、お、し、ま、す、く、八、右、祖、の、お、し、ま、す、給、ひ、

のは、う、わ、す、ま、き、く、中、外、人、の、系、を、く、
 東、照、宮、の、軍、功、を、本、と、し、て、信、を、お、し、ま、す、給、ひ、
 其、信、よ、ら、ん、と、申、す、事、也、

器量の大ききありて、その寶よるのよきと申す本が事をも
以仁心深厚かゝる。あつて、専らのおよひ給ふ事ありしは

のほつちをきき、中外人の衆わく。

東照宮の御軍功の本やと後をわひし。其序よる人の

才器よく其素をわく成りしと申す。實るとも、おのれを

渡よ、おのれよきと申す。其家老流又と世の智謀と好む者。

を望み此と申す。と申す。將人らと撰のうらみき謀とおと

多し。常に於都と高より多し。おのれも似合る。評議と云ひ

かつら。是れもよき事や。さやの人のあつて後へつら

直諫と一なる給ふ事難し

そのよきと申す。倭僕とも。劍業の君おほく。天下と一人の奉

とおのれよ。天下と得く。栄華とさるる。名國とほくぬ

之を以て其れ別とて望み感し奉るべきをうへる。予も古今
 一傑出の流しをすべく、此世の内、以て自身の聰明を傲り終
 常以下の直言と納りてせ終りしを、真此に聰明ともやまら
 毎日を古より人君此徳を傷きしを、諫といひては、たか
 人聖人よりしるべきに必遺失わらざるをいひます。わさるも諫
 といふも、虚損此疾の補業と交らざる。虚損なきとて、
 ように治するの頼あり。一、徳をよきす。わさるも、徳をよき。虚
 損の病は補てきと交らざる。二、虚損は、徳とて、徳のた
 るをわら、徳。三、まとも英明の君は、徳をよきて、好て自ら用
 程以下の直言とゆる。思ふや、徳。四、徳。五、徳。六、徳。七、徳。八、徳。九、徳。十、徳。十一、徳。十二、徳。十三、徳。十四、徳。十五、徳。十六、徳。十七、徳。十八、徳。十九、徳。二十、徳。二十一、徳。二十二、徳。二十三、徳。二十四、徳。二十五、徳。二十六、徳。二十七、徳。二十八、徳。二十九、徳。三十、徳。三十一、徳。三十二、徳。三十三、徳。三十四、徳。三十五、徳。三十六、徳。三十七、徳。三十八、徳。三十九、徳。四十、徳。四十一、徳。四十二、徳。四十三、徳。四十四、徳。四十五、徳。四十六、徳。四十七、徳。四十八、徳。四十九、徳。五十、徳。五十一、徳。五十二、徳。五十三、徳。五十四、徳。五十五、徳。五十六、徳。五十七、徳。五十八、徳。五十九、徳。六十、徳。六十一、徳。六十二、徳。六十三、徳。六十四、徳。六十五、徳。六十六、徳。六十七、徳。六十八、徳。六十九、徳。七十、徳。七十一、徳。七十二、徳。七十三、徳。七十四、徳。七十五、徳。七十六、徳。七十七、徳。七十八、徳。七十九、徳。八十、徳。八十一、徳。八十二、徳。八十三、徳。八十四、徳。八十五、徳。八十六、徳。八十七、徳。八十八、徳。八十九、徳。九十、徳。九十一、徳。九十二、徳。九十三、徳。九十四、徳。九十五、徳。九十六、徳。九十七、徳。九十八、徳。九十九、徳。百、徳。

議二言わすの友とありてときく。求諫要とす。まとも多くハ
 其名をりる。直まする人。退きや。阿諛する人。

そのわがも。あ。ま。ま。も。英。明。の。君。は。を。し。て。好。て。自。ら。用。ひ。
経。下。の。直。言。を。好。む。思。ふ。と。す。と。は。な。ら。ず。心。の。事。の。代。り。諫。

議。二。言。わ。さ。の。友。と。あ。り。と。き。く。求。諫。要。と。す。と。も。多。く。ハ
其。名。を。も。あ。り。直。言。す。る。人。と。退。き。や。さ。く。阿。諛。す。る。人。と。す。
こ。や。さ。く。と。さ。さ。く。と。は。過。客。わ。ま。さ。も。改。す。國。は。國。政。あ。ま。さ。も
そ。の。せ。ら。是。古。今。の。通。患。や。る。ま。い。ん。や。象。射。武。力。代。は。は。さ。さ
て。と。さ。さ。く。本。威。と。さ。さ。く。下。と。割。く。下。と。多。く。勞。力。と。さ。さ。く。と
こ。は。さ。さ。く。玄。淵。塞。す。や。す。く。下。情。通。り。か。く。國。事。自。ら。辨。別。
す。と。さ。さ。く。と。さ。さ。く。あ。の。よ。う。や。さ。さ。く。あ。る。と。さ。さ。く。は。つ。り。を。簡。
要。の。事。と。さ。さ。く。入。り。あ。ら。ま。あ。ら。ま。あ。ら。ま。あ。ら。ま。あ。ら。ま。あ。ら。ま。
東。照。宮。兵。亂。搶。擾。の。乃。よ。は。は。出。ま。し。く。て。常。よ。と。路。と。知。さ。き。
下。情。と。通。り。し。と。は。な。ら。ず。心。の。事。の。代。り。諫。す。と。さ。さ。く。ま。た。あ。ら。ま。

遠列濱松の所城

以事と尸也。遠列濱松えんちゅうんまきりの所城は在りて其時

本多作渡も并に外振の者三人以用の本物とて

さらぬ用すして。三人の若く退かぬ中より

鼻を以依よる。字范の物一並にけり。自分

わけもわきまをさしとわかれと云ふ。日了

い本とも書付をきかぬ。さうなる。万一ひ

あもす。なる。さうなる。さうなる。さうなる

奇物なる。心入れ。以感や。これ。作。流。さ

う。以。さ。あ。く。よ。ま。て。き。母。と。作。ら。ぬ。行。は。教。簡。條。お。は。せ

候。よ。る。心。入れ。一。簡。條。と。よ。る。心。入れ。と。は。わ。り。本。と。は

お。は。せ。ら。わ。す。く。其。事。記。の。物。を。と。り。以。て。あ。そ。け。し。さ。て。作。ら

ま。り。候。と。是。に。限。ら。ぬ。以。後。も。あ。ら。わ。ぬ。事。を。あ。ら。わ。す。は。が。し。も。を

新編 御成敗式目

卒尔ちもぬあつるがもつて之を羨事あやましむるは、あつてとも
下へ、衆身しんのわやあらとあつるをのやると、これと小身こみがするを、
心安こころやすく友を借事ともをかりとわまはるひは、身の上みの上に悪わるき事と
いふく吐味つみもすれ、ほどを付く改あらす事ことに、是こゝに小身こみ乃
蓋ふたやると、大身おほみがひものら、友を借事ともをかりと、も合あはる心安こころやすく改あらすと
いふ事ことも、やゝ進すすむ事ことに、合あはるのと、家いへ長ちやう而に後ごと、
下くだりて、大おほなる事ことと、ハ、改あらすとあつて、あやまる事こと、
あつて、大おほなる事こと、ハ、改あらすとあつて、
かゝる事ことも、大おほなる事ことの換かへと、あやまる事こと、
家いへと、あやまる事こと、大おほなる事こと、我われ過あやまると、
家いへと、あやまる事こと、大おほなる事こと、我われ過あやまると、

告つげらるる事こと、大おほなる事こと、
告つげらるる事こと、大おほなる事こと、
告つげらるる事こと、大おほなる事こと、
告つげらるる事こと、大おほなる事こと、

おらよ。そら。おら。おら。の。換。と。い。ふ。也。古。よ。も。い。は。貴。や。ら。る。も。の。園。と。ま。ひ。
家。と。亡。し。ら。る。大。く。我。邊。と。い。ひ。ま。つ。す。ら。も。の。や。の。て。向。方。り。

よ。ひ。も。と。の。貴。と。ら。り。も。も。ふ。か。か。あ。あ。ら。れ。わ。の。邊。と。
告。知。ら。る。者。と。大。切。と。い。ふ。も。き。ま。わ。ら。れ。や。と。修。ら。ま。し。と。作。
流。さ。る。を。流。さ。る。と。い。ふ。も。の。お。ひ。も。き。嫡。子。と。野。女。と。作。ら。ま。し。
と。作。ら。ま。し。思。ふ。は。ゆ。も。貴。と。く。と。仁。厚。や。ら。る。と。い。ふ。と。く。
流。さ。ら。ま。し。と。野。女。と。い。ふ。と。貴。人。と。作。ら。ま。し。ゆ。け。ら。る。貴。人。と。
す。は。い。貴。人。の。事。に。ゆ。け。ら。る。と。い。ふ。も。の。作。流。と。野。女。と。い。ふ。
と。い。ふ。も。の。と。の。思。ひ。の。結。核。や。ら。る。と。い。ふ。と。貴。人。の。名。と。い。ふ。
と。い。ふ。も。の。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。
と。い。ふ。も。の。と。野。女。年。わ。ら。る。と。い。ふ。と。貴。人。と。作。ら。ま。し。と。い。ふ。と。い。ふ。
と。い。ふ。も。の。と。貴。人。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。

徳川家系
卷之三

死すべし。其後、後府の口城より度々さうし、時、側侍
生の尻上をわたり、入、君とよす。家老、我おへ、いすわを
我常、あきく、うと、君、我事、わいと思く。自、君、怒とも、
ア、心、諫言とい、家やとも、戰場せんぢやう、や、一、敵、誅、を、す、る、を
も、わ、る、い、や、り、多、く、い、ま、せ、と、い、や、し、其、子、細、く、敵、も、向、く
勝負しやうぶと、す、る、と、身、を、我、つ、と、ひ、く、と、な、ら、ぬ、す、わ、る、と、必、敵
い、く、い、へ、さ、も、お、ら、ぬ、多、く、い、討、死、す、く、も、世、は、名、を、の、じ、
と、我、あ、り、け、り、お、ま、ぬ、さ、け、死、し、て、も、奉、立、ま、り、す、や、る、と、又
敵、と、討、死、す、べ、し、と、君、に、感、は、わ、け、る、と、恩、賞、と、情、く、子、孫
中、も、傳、へ、ハ、戰場、の、く、く、も、我、と、は、死、と、も、い、ふ、い、ふ、と、わ、り、

い、く、い、へ、さ、も、お、ら、ぬ、多、く、い、討、死、す、く、も、世、は、名、を、の、じ、
と、我、あ、り、け、り、お、ま、ぬ、さ、け、死、し、て、も、奉、立、ま、り、す、や、る、と、又
敵、と、討、死、す、べ、し、と、君、に、感、は、わ、け、る、と、恩、賞、と、情、く、子、孫
中、も、傳、へ、ハ、戰場、の、く、く、も、我、と、は、死、と、も、い、ふ、い、ふ、と、わ、り、
直、諫、す、も、ハ、忠、言、耳、と、逆、り、お、り、あ、く、と、我、に、い、ふ、わ、り、ぬ、程、よ、

敵と討死すべしと君に感しわけし。恩賞と惜み子孫
中も侍とハ。戦場のくくも死とすよんよんわん

し。さきとあつて。主君の無道やうに戦やけさう。ちん
直諫すもハ忠言耳は逆子あつて。主君にやわぬ程は。
常しといひ。進みまゝ。たれ礼教もわひらされ。月よ。時を
よなるものや。まゝ。新進容悦の偏り。のた。件の家老と
す。よ。ゆき。終する程。いと。遂て。主君に。月。月。わ。く。ち。て。
何と。さ。く。も。用。し。は。活。其。可。も。い。ち。よ。以。忠。臣。も。退。屈。す。る。程。或。ハ
病氣と稱し。或と致仕と稱し。ま。ま。い。ま。い。退。く。分。別。す。る。そ。う。
結。ぶ。よ。う。と。君。に。對。し。て。中。も。ま。ま。い。く。ま。い。も。す。と。い。て。
極諫。し。た。け。な。君。怒。と。稱。し。ま。ま。い。す。け。り。又。も。押。こ。め。て。お。い。
ぬ。や。う。と。す。り。や。わ。ら。し。そ。と。我。處。も。い。ま。い。け。と。あ。り。わ。り。

報國の志はけして終るに世はわづのた貴忠臣といふも是
より比すべし。我場此一妻陰を及くやとて乃に其志と修ら
ましとせえ。後万世に子孫に承るべき事とす。及んばすく
人君の承き鑑戒となす。魚子河公系ともす。

松田壹伎

是よりよくよく之を。陥陣先登すべし。能きややく易く。
犯顔直言すべし。易きややく難し。能くは古くも長も。
陥陣先登の功と貴き事と共志す。犯顔直言の忠と言ん
事とけし。はたは悪くやと長くも人いふ事。

東照宮に上意と云ひし。後承りて。寛永の了後。然ち故

伊豫守殿の家老。松田を彼といふ者あり。そのやうに只怪し
。其身の材と云く。微賤よきを庸せし。其厚縁故に伊豫守

すふ事とけきしにさしはるる長し人のけきし

東照宮に上意と意ひありきやうなる。寛永の了後、然ち放

伊豫と駿の家老。松田を彼といふ者あり。さういふは只怪なるし

。其身の材とよく微賤よりを庸せしき。厚俵はけ四老

より烈し。ある。伊豫と駿参観せし一年を江戸の内費用過

分なるほど常より前より支給して。用度たる極は去りてハ

いと壹波の比かりしとや。そよとてさうさう。常に犯顔

直言とく。君は過と匡救と以事と志道は。おふ時伊豫と駿

を國とく。たかかり。哺時と及く。城ある。家老ともいふ。お

迎し。伊豫と駿あとの外。おふとあ。家老ともいふ。討て。

し。この若とも。のさう。幾。は。す。れ。な。し。お。ま。さ。や。ら

万一の事もおとく。を陳す。も。との。は。用。中。と。あ。り。ぬ。し。と。え。ゆ

るに其方とて取くはしむもあはれしとあはれしと
 孝老もいけともは家の多もあはれしとあはれしと
 とつひに壹波つ入事なむわらふはかたき
 とははれしとあはれしとあはれしとあはれしと
 源も壹波と何とあはれしとあはれしとあはれしと
 里のよろゝとあはれしとあはれしとあはれしと
 源も壹波と何とあはれしとあはれしとあはれしと
 とつひに壹波つ入事なむわらふはかたき
 とははれしとあはれしとあはれしとあはれしと
 源も壹波と何とあはれしとあはれしとあはれしと
 里のよろゝとあはれしとあはれしとあはれしと
 源も壹波と何とあはれしとあはれしとあはれしと
 とつひに壹波つ入事なむわらふはかたき
 とははれしとあはれしとあはれしとあはれしと
 源も壹波と何とあはれしとあはれしとあはれしと
 里のよろゝとあはれしとあはれしとあはれしと

源も壹波と何とあはれしとあはれしとあはれしと
 とつひに壹波つ入事なむわらふはかたき
 とははれしとあはれしとあはれしとあはれしと
 源も壹波と何とあはれしとあはれしとあはれしと
 里のよろゝとあはれしとあはれしとあはれしと
 源も壹波と何とあはれしとあはれしとあはれしと
 とつひに壹波つ入事なむわらふはかたき
 とははれしとあはれしとあはれしとあはれしと
 源も壹波と何とあはれしとあはれしとあはれしと
 里のよろゝとあはれしとあはれしとあはれしと
 源も壹波と何とあはれしとあはれしとあはれしと
 とつひに壹波つ入事なむわらふはかたき
 とははれしとあはれしとあはれしとあはれしと
 源も壹波と何とあはれしとあはれしとあはれしと
 里のよろゝとあはれしとあはれしとあはれしと

の平依一幸以我思活て。なすも。いさく真入いしきもわ。
 其跡中く。外の家もと心き波よびりて。波為とたして
 中さまうしと世中く。折もわるき事や。今日以爲
 望よりしれ操煙中く。波をわすしに。波氣さきとおし。世
 事ハなきも。わらんき事や。世とら。とき波長。諫とす。上
 下。波操煙と考ひく。よき折。そくとなき物中く。今日ハよき
 序とて。やなは。其と某事と。波立のとき。世中く。人々。若と
 了げのち。い多の世中く。折と謝と。わいゆくも。其方ある
 中く。ゆと。い多は。信家老各感。わいゆく。さして。家
 あり。切腹の用とら。て。事な。此の世。信家。自ら。後

糟糠の妻。わいゆ。なむ。そ。よ。い。を。事。多。心。の
 信。家。老。各。感。わ。い。ゆ。く。も。其。方。ある。

中くゆといひを道は法家老各感しわひをぬさうてきり
あはしく切腹の用とうしてまた此の世傳のゆゑに自ら後

糟糠の妻おのれぬむらさきそよひをく事多むゆゑ
侍り此男と女の才やまはるまは此恩をうけあふゆゑにだけ
まゝも我此厚恩をたふすは是の妻といふまゝに男の今歴
歴の妻として大勢の前後に圍繞せしむるにかたよなまは
恩よわらばやそのまはは生害作すらるゝゆゑに
物々久しと此恩のまゝにさうすま忘るはてゝるに
怨を奉りしあふらばさうさう女も我男のまゝにま
て上と怨をまらやうわらすまゝにまはるまは
苦味の下まゝもゆゑに怨とあふらうといひをぬさうて今やと
侍りよまはるる子行よ入まゝに門まゝにまゝにまゝに城

...

是と云ふも、さうして我とおもひくを、誠しき心も、すくりに
 寝更まよがし入、其方、をいひ、本心より、さうして寝られぬる、若
 陰えのさきも、よひに、ひやる、わ、おや、ま、多、あ、す、と、ど、り、
 い、さ、及、を、其、方、の、さ、う、と、ゆ、く、感、し、さ、き、は、足、す、と、あ
 す、さ、く、ま、よ、腰、の、物、と、賜、す、う、ハ、き、波、も、お、ひ、ま、の、ら、ぬ、ま、さ、く、
 お、ま、と、あ、海、の、頃、つ、お、賜、し、て、ま、る、ま、あ、ら、い、と、ま、げ、す、前、が、候
 よ、お、し、時、越、ま、の、人、わ、さ、く、信、す、う、ハ、今、あ、ハ、は、校、回、れ、し、を
 東照宮の作らまう、世、は、さ、う、さ、貴、家、老、とい、つ、も、し、傳、は、一、番
 陰、も、ま、も、難、き、う、の、よ、あ、難、ん、う、。

伴大膳

さ、ま、は、巧、倭、なる、は、と、人、志、の、う、よ、う、の、ひ、て、常、に、任、用、せ、ら
 る、ま、と、も、大、切、の、事、を、お、直、す、る、人、さ、う、して、お、用、よ、あ、ら、い、と、ま、げ、す、

後よりも難きものよお難ん。

伴大膳

さきは巧^技倭^術なるはと。人悪のやよわのひて。常に任用せら
るるも。大切の事やを。別直^直やする人か。うてと。利よ。あち。は
そまよ。付く。右の。松田。事と。ち。ひ。あ。ひ。事。や。ま。ま。も。序。か
理。か。り。と。は。ら。く。く。大坂。冬。陣。地。前。片。桐。市。正。持。列。落。本。此
城。據^つて。陣。方。の。せ。し。に。軍。山。小。き。傷。う。泉。列。城。よ。有。く。難^し
や。ま。と。ま。く。右。を。味。方。は。急。難。と。ん。控。て。ら。陣。方。や。た。ら
甲。斐。が。ま。き。事。と。お。と。ひ。落。本。の。城。に。引。さ。つ。西。よ。あ。ん。と
て。も。下。の。兵。か。し。引。さ。く。は。ら。く。ち。う。ま。る。よ。其。兵。備。列。尼。持
と。る。て。城。よ。く。難。ん。と。し。は。と。大坂。より。兵。と。は。ら。く。ち。う。落。本
の。兵。と。あ。ち。て。攻。ま。る。程。よ。尾。崎。の。城。に。援。兵。と。包。く。う。と。も。城

徳川家康の御事

よし救をさしよし。八。藤本の兵のらし討死し。あつ。計時尼
 濤の坂と建設二十節幼少や多く。加播列池田武蔵守より池田
 越前守城大蔵やとつ。小宿のよ士卒と海をけり。そ。金蔵る。う。
 け者とも片桐と親て。落本此兵と救をさる。あ。わ。あ。た。世中々
 武蔵守大坂と内海あけやう。中。ゆ。法。せ。や。る。大坂と一。多。以。池
 和睦の後京二條に池田守をいす。池田金蔵あつ。に。武蔵守城家
 臣小伴大膳といふ者。と。中。も。う。く。以。存。知。あ。る。若。や。ま。は。じ。う。池。あ。よ
 あ。あ。く。は。く。や。し。と。け。つ。く。一。筆。と。も。池。懐。い。あ。つ。と。き。ん。今。よ。あ。あ。く
 と。や。く。や。ゆ。く。心。眼。前。よ。味。方。に。無。く。と。り。と。ん。て。後。せ。つ。ま。武。蔵
 守。の。底。つ。う。う。そ。や。め。さ。る。は。修。ら。ま。其。ま。く。池。田。守。と。多。勢。

所らと見をま。獨指と撥くり。後。あ。け。す。く。以。側。へ。匍。匐。あ。ま。れ
 小仲の營をす。す。そ。と。池。あ。け。け。も。や。ま。す。上。ま。ま。く。い。う。ま。れ。後。さ

とやくすゆく心見え眼前は時方此無くありと見たり後せり也。或は
ちの底つらうそやゆめさうは修らむ其のくは座と多勢

所らと思をす。獨指を授くり後かひす。此例へちうた匍匐をいれ
小社の營をすす。こを汝がけもやうとささやく。いふは娘さ
まの衣服をも生きまはれとく。或はちも汝孫とく。之れは
や多今や此又け侍らして。いふは中け侍とく。やとそ。或
さうや汝をすしけり。上公儀。其故と感へ。た何れゆ。さうや。
よりこもきり。やとそ。やとそ。或はちもやさう。せり
安堵させり。とさわす。六。大膳と合せ平依して。汝れ
とこ。とさ。やとそ。其故とく。汝前何儀の虎侍。凡
い。わの大膳。父とも大膳といひ。或はち。の父。こ。た。是。い。さ。り
弱や年後少く。な。と。希。や。い。ひ。十。時。の。馬。卒。わ。る。じ。う。と。長。湫。の。我。よ

後
一六

よろをさうさすかのうらへんやけとちかきしやうも今の世よ
 じやうじやうの世にさうさすかのうらへんやけとちかきしやうも今の世よ

是の世にさうさすかのうらへんやけとちかきしやうも今の世よ
 そとく大膽の匹夫とさうさすかのうらへんやけとちかきしやうも今の世よ
 今と抛く。國の富完と明ふふくはく世よ多くひやうは下
 ささけしやう上聴と回し。池氣文も霽るのさうさすかのうらへんやけとちかきしやうも今の世よ
 と書す。大さうさすかのうらへんやけとちかきしやうも今の世よ
 中けりしやうささけしやうは限らぬ。鈴木のさうさすかのうらへんやけとちかきしやうも今の世よ
 中けりしやうささけしやうは限らぬ。鈴木のさうさすかのうらへんやけとちかきしやうも今の世よ
 直言とさうさすかのうらへんやけとちかきしやうも今の世よ
 とうらへんやけとちかきしやうも今の世よ
 八一は放棄せしやうさうさすかのうらへんやけとちかきしやうも今の世よ

後... 十一

首の中ける松岡壹波の本につもて思ひかけ。是も越前之士
 中くゆさして忠義に係る本中くを侍らぬとも。其下流也士
 凡と信ずるに及ぶ。秀康は越前よ封せしむる給ひ。後阿閉
 掃部とく。武功の英名あり。若狭厚祿中く石抱らしむる也。
 又狗伊勢とく。是も國中、世縁の歴くやるる。嫡子よ澄の
 是物させ給ひよ。この掃部と招待し侍。子よ鎧き守る事と
 多のともあさく。御膳すも。これの音に及ひ。時伊勢今六
 是も澄の是物中くゆさ。此方の此武功の事。此物給ひく彼
 下流き。せせとゆいよ。掃部は某の父の上よ。此を侍し。金き
 程の武功と是中くゆさ。此の事と此中も然し。さうくゆさ。其一

生の内よ。是若振の思す中くゆさ。一人思やしてゆ。その事とは
 中あ。江列志深。森の我よ。若方よ。某一騎余吾の朋のつてあ

よけきやせとていへば掃却しや某の文の上よれとほしや餘き
徑の成功とその中よれとていへばとていへばとていへばとていへば
某一

生の内よ某の振の思さやれとていへばとていへばとていへば
中あり。江列志深の我よ某方よ某一騎余吾の胡のつて
とていへばとていへば。は困掃却し父ハら困路とていへばとていへばとていへば
てしとていへばとていへばとていへばとていへばとていへばとていへば
よとていへばとていへばとていへばとていへばとていへばとていへば
幸とていへばとていへばとていへばとていへばとていへばとていへば
すよとていへばとていへばとていへばとていへばとていへばとていへば
ひよとていへばとていへばとていへばとていへばとていへばとていへば
よとていへばとていへばとていへばとていへばとていへばとていへば
ていへばとていへばとていへばとていへばとていへばとていへば
余吾乃

...

湖は鎗と打つ。二二遍おらひたぐ。さういふとき突おひし。
 久しく勝負やうする。往ふ。いと書きたる。このわやめも。金
 やる。ぬ。其時わやめ。又廻さうけ。さうや。縁先と。乃之。此
 池。海。多。く。ハ。出。ても。是。を。く。中。く。此。と。後。下。ゆ。爲。し。以。名。と。て
 取。こ。く。山。某。ハ。志。在。新。舊。と。下。若。お。く。ゆ。と。て。某。の。り。た。も。取
 下。る。く。以後。又。陳。乃。よ。て。お。右。ゆ。あ。る。い。入。も。六。う。子。下。は。く。性。
 と。又。味。方。に。く。出。る。日。中。ま。さ。く。入。魂。い。じ。ゆ。る。と。六。と。を。立。下。の。道。の。
 是。行。乃。事。や。ら。武。士。ハ。け。お。清。信。に。い。う。か。事。を。そ。の。い。也。と。信。上。は。れ。ふ。
 其。は。伊。勢。の。も。と。心。あ。か。入。す。る。ま。本。勇。敏。と。い。わ。浪。士。わ。あ。其。日。も。一。年。後
 とも。是。後。多。道。此。地。際。と。き。ま。て。後。子。あ。ま。あ。て。い。て。は。掃。如。

よむ。い。く。ま。く。も。只。今。の。池。地。を。と。取。ま。今。又。荷。を。と。ひ。
 渡。を。お。ろ。て。了。そ。此。其。時。の。池。相。子。よ。や。ま。と。池。ま。本。新。舊。ハ。

其は伊勢のものと云ふ人もある。其の源をわきまはるるに、
其は伊勢のものと云ふ人もある。其の源をわきまはるるに、

よむひくも、今この世の中を、
清き水にて、其時の世の中を、
そけしすく、我々の世の中を、
おぼくは、其時雙方の、
ひたひたの、掃かむる、
くくわひく、
是と云ふ、
おのれ、
掃かむる、
遷の時、掃かむる、

後醍醐天皇

二七

へ招きよせしむるに仕へて子孫相傳へて今もわが爲に
 加へ有し時ある人しやと信するにしも本は我れも此れ見る
 やうにさすもやう阿困は彼の子中を以てかく其の身を合てよるべし
 又伊勢の子の體の遺物と指して子の多ありて其功の物
 うるも遺物に信するにさすもやうにさすもやうに其の後の士
 風をさすもやうにさすもやうにさすもやうに其の後の士
 喰らう後の遺物と指して子の多ありて其功の物
 録の家と名せし我れもよきものやうに武士の家を名づるは
 是も人々我れもよきものやうにさすもやうに大小兩刀又六甲甲冑
 のより體の華堂と名せし多し我れもよきものやうに體を

作事終るて我れもよきものやうにさすもやうに五百年来天下我

是も人々我の心通しを羨あやしくおもて大小両刀又六甲甲冑
のしつじの華装をせり。多し我を道々としをさるる體也

惟、孝節を我輩の治世にやうくしよる。五百年以來天下我
とく風をうしゆ。我の才、志、筋、力、心、身、六
志、心、徳、初の一、心、中、も、臆、あ、る、事、共、い、は、れ、志、は、く、あ
し、も、脇、指、と、さ、さ、る、文、通、を、見、出、く、こ、こ、や、ま、い、や、
き、方、を、わ、ま、く、し、も、是、程、い、は、ぬ、す、は、く、我、の、一、筋、ハ
と、し、や、し、は、い、前、に、ひ、て、さ、あ、い、や、ら、そ、共、の、道、は、志、
す、也。我、士、の、心、位、坐、仰、よ、我、を、志、ま、ぬ、や、う、に、さ、く、ゆ、ら、聖、賢、
の、域、は、あ、ら、ん、す、も、雅、る、人、に、さ、わ、ら、は、し、や、ら、我、も、義、氣、
の、愛、す、い、ち、や、く、ゆ、古、來、孝、節、の、我、士、と、い、は、る、多、く、ハ、不、学、に
く、文、通、の、金、銀、は、く、と、し、も、義、は、わ、あ、ま、て、し、二、命、と、作、也。

後、徳、治、世、
卷、之、三、

漢書卷之三十三

廉恥の心を失ふるも。武義のつゝに可くゆされ、謙倉以
東教化を世より行はせしむるも。其くは武義の心を失くす
凡そも維持し、國家も治平やする事よりつひに。其もあはる
武義を失ふるや。よむるはく行はす。八不佞風俗の目よ趣情
よやむるはく。とやけうくく。其もあはる。

士の節義

ある時の今も古今節義の事よ及ぶ。前より幸ひに孔子
季路冉有の二子と。父と君とを弑す。中々不佞と終らざるや
か。志おるまを。其人の。君父を弑す。同をす。事おらざる
や。二子と孔門の高才よわらざるや。其もあはる。季氏

う石片と。よりめ節を。し。ち。る。ま。わ。ら。は。る。と。あ

かゝる志わらざるは人の、君父を弑すは同する事ならず
や。二子と孔門の高才はわらざるや。そまはくは、
李氏

う石と、よりぬきと、
るす、
ひく、
殺して、
何と、
帝と、
術と、
の、
復原、
仕へ、

後漢書 卷之三十三 光武本紀 三十三

と殺してきり。彼二子と、わいの場と、むくはたとひ身命集
一として覚悟と、あつちすあやうき事と、義徳と、一も源

家の名將と、用ゆきと、勇氣と、つまやく、義徳と、うらく。志
若や、たは、まほしの理非と、まよひ多し、一して長岡忠と、おの
おのと、あつちと、う。一と、俊、佐、佐、幸、八、八、島、親、房、の、神、皇、二、統、
紀、の、傳、一、し、て、最、好、よ、高、き、事、け、す、の、新、業、と、い、ひ、ま、せ、云、統、記、
よ、う、ら、と、義、徳、父、の、と、ひ、と、う、ら、せ、る、道、に、す、大、さ、や、う、と、い、ひ、ま、
古、今、や、ま、き、の、尺、倭、漢、や、と、倒、す、一、勤、功、の、業、と、い、ひ、ま、せ、る、と、も、
自、ら、退、く、と、も、な、ま、う、の、父、と、い、ひ、ま、せ、る、道、に、す、と、い、ひ、ま、せ、る、
う、ま、と、い、ひ、ま、せ、る、一、と、い、ひ、ま、せ、る、は、お、よ、其、身、と、い、ひ、ま、せ、る、す、ま、き、道、に、す、滅、
ひ、ゆ、め、す、と、天、理、や、る、お、よ、ぎ、う、お、す、八、其、身、の、う、ら、い、ま、せ、る、と、も、
中、朝、奉、の、出、お、や、ま、と、い、ひ、ま、せ、る、よ、朝、議、お、る、と、い、ひ、ま、せ、る、其、身、

義徳と、一も源
一十三

長とわまるわすし。おやと。諫めやうてきん。大義たいぎは六滅親ろくめつしん
 としすのわかれ石碯せきぎといふ人其子と流しあれすやま。不忠
 の子と殺す。御す。父不忠やるとも。子としてあはれむのたはじ。
 保元平治かうげんへいせいのころ。天下亂る。我威す。予に。五位階ごい
 なる。ぬ。よ。を。此世。之。死。さら。ら。名。の。の。や。あ。さ。う。し
 と。そ。け。時代。是。経。ひ。き。義。論。わ。る。と。き。ひ。さ。す。う。親。房。南
 朝の老ギラウ光クワウと。け。見。識けんしわ。る。は。け。款。論。も。あ。る。と。し。あ。つ。き
 一。休。明。智。光。秀。織。田。信。長。と。我。せん。と。丹。波。路。を。し。て
 正。時。塗。中ていじぬちゆう中。下。旗。下。の。将。士。陰。謀。の。企。あ。る。事。と。始。く。し。て。せ。
 さ。う。一。堂。同。心。見。と。し。一。紙。の。折。と。文。と。あ。る。に。軍。また。あ。る。

驚き見て。ど。う。の。事。に。及。た。さ。る。に。世。に。世。に。内。務。女。中。の。は。い
 止。み。に。あ。る。も。清。利。運。わ。り。き。ま。す。と。い。ひ。同。心。と。い。ふ。事。

正時塗中ゆく旗下の將士、陰謀の企ある事と知く、
さう一黨同心見と、一線の折と文と、
軍また、

驚き現て、どうの事か及た、
此企に企るも、清利運ありき事、
悔も、敗亡と、
とわ、
一妻は血判、
孟子は非義之義、
大人の世、
手よ、
水く世、
る事、

の各のまほと。世作は、とゆひ女死と、中、早竟、義の
 筋より、茂、友、小、是、拘、下、何、得、下、逼、死、と、く、は、な、賊、黨
 下、陷、極、罪、又、處、せ、と、ま、は、れ、と、け、り、事、事、を、ら、は、り、也。

歳寒知松柏

在中、ひ、を、末、の、文、天、祥、謝、枋、持、と、事、と、い、ひ、て、嘆、美、す、ら、ひ、又
 ひ、と、事、の、方、孝、孺、と、事、と、い、ひ、ゆ、り、孝、孺、成、程、と、對、て、は、
 終、少、も、屈、せ、た、わ、く、ま、く、成、程、と、罵、て、は、成、さ、う、ま、ま、の、わ、り、
 赤、族、せ、ら、ふ、人、と、く、悔、さ、し、り、古、今、義、烈、の、を、と、い、は、し、り、
 翁、聞、く、文、山、の、衣、笥、の、の、ら、ま、り、賢、曼、山、の、却、聘、の、書、と、人、從、
 二、子、の、心、事、の、向、む、る、事、と、事、と、い、ひ、文、山、の、元、の、博、羅、と、同、名、す、ら

と、思、は、れ、其、氣、象、凜、く、ら、う、て、死、す、と、い、は、れ、去、り、其、後、容、は、れ、
 才、ハ、方、孝、孺、等、の、忱、慨、と、て、就、死、と、す、と、い、は、れ、對、簿、書、を、之、

我聞く文山の夜箏のうらまは賢量山の却聘の書と人終
二子の心平の向なる事と志と人。文山の元の博羅と回答する

と見らば其氣象凛くして死すべし以て志すも其後容れ
才小方孝孺等。慨然として死せしむる事と志すも其後
侍ら。但文山の宋の丞相とて志すも其後志すも其後
牙やるも事と志すも其後志すも其後志すも其後志すも
預らばの身中もあはれ公宋七ひくえははくして。志すも
も。してやと事と志すも其後志すも其後志すも其後志すも
す。してやと事と志すも其後志すも其後志すも其後志すも
々々。其後文山と抗衡すも。趙子昂留夢炎等と事と志すも
作らしてえははくして。志すも其後志すも其後志すも其後
恥の事と志すも其後志すも其後志すも其後志すも其後志すも

文山の夜箏のうらまは賢量山の却聘の書と人終
二子の心平の向なる事と志と人。文山の元の博羅と回答する
世二

勇壯義烈、けいとも孝孺よおとくく、らに古今義氣の信譽に
 とし、後とや中るべき時先朝の文成名を志し、中程の若無き
 と迎奉せし、子に依長を子に因難に殉じ、中と、後、家
 志く、松栢と志ぬとも、後、孝孺、孝友、就戮、と孝孺
 てと、ま、く、九族門生、ら、ら、く、尸と、前、は、後、と、ら、く、つた
 ひ、顧る本、や、ら、く、ら、く、ら、く、兄弟の志、母、ひ、ら、く、や、わ、ら、く、え
 お、因、ら、る、後、志、ら、く、孝友詩、を、に、け、ら、く、兄の孝孺、を、歎、ま、ら、く、其、ら、く
 阿兄何必淚、潜く、取義成仁、在此間、華表柱頭、千載後、
 旅魂依舊、到家山、
 中、わ、ら、く、ま、ら、く、中、や、ら、く、百世の下、あ、く、も、き、ら、く、人、波、を、志、不

中、わ、ら、く、ま、ら、く、と、殉、難、の、信、譽、に、世、に、赫、著、す、ら、く、中、や、ら、く、信、譽、に、今、文
 中、わ、ら、く、ま、ら、く、其、列、中、に、あ、ら、く、殉、死、す、ら、く、信、譽、に、今、文

猿魂依舊到家山

いやはやと云ふやうに申せらるる。百世の下あくもきり人波と云ふ

ふまへにされと殉難の供はら。世に赫著するすまじく侍ら。今文
ト申も及たれあふ。其列中々お死く。殉死するも侍らりて是也
はら。建文帝は後くお亡せり。二十二人中々の中中。翰林脩
撰程淵は古今比類がまき事とし。中し。そまは侍きて建文
帝の始末と名とく。い。考へ。並終へる事。前多。今。元愆
うせく。事。う。ま。う。せ。あ。す。も。お。な。ら。ひ。あ。ひ。ぬ。さ。ハ。只
あ。ま。う。と。物。法。い。ゆ。り。し。太祖の時懿文太子薨去。建文
帝嫡孫とく。中。統。と。継。ぎ。し。帝。年。の。材。弱。く。あ。り。せ
し。叔父の燕王雄才わす。倨強。逆。制。及。し。行。ふ。百。歲。の。後
國。事。の。変。わ。ら。ひ。す。と。右。終。り。て。慮。了。ら。る。事。其。時。議

意伯劉基博學多識諱の事と奏進せしと聞し劉
 基がすくすく為すもあらずやひよけの紅箋以密緘して師と
 うまはれ大雅に修くそと用きしらすすもわらわら
 無兵すくく大内は迫る象城をらひ今もくくすくすく
 時今くく大内は火とけせ帝自ら焚死するや此て
 其紛まは程濟の紅箋と打碎こく見まは度牒三張三人
 の名はくくくか紙油帽子利刀の類すく内は傳すくわす又箋
 肉く赤書しくく意文と鬼門をくく其條ハ水園の淨溝を
 しくく意文と神樂観ふ今もくくわすくく人の名ひとくハ意文と
 ハ建文帝多くくく意文と揚庭能遊びとくハ意文と

葉希賢在す程濟急は帝の髪を祝し妻れハあ人も同く
 髪を祝す夜と易て髪を祝す帝を殺すやわらわら

後亡の人皆うせそく。友比上も相継く方あり。予も是ハ。和濟一
人ちつものころより。帝を護りけり。或は屢空ありてきて

糧と暮す。或は侍病く。或は茶と乞ふ。その崎嶇狼狽之れや。何
多。帝はよき以。名簿と遊歴して。多くハ。訪と賤く。懐舊
の情と。其の中一首是のゆり。

軍落西南四十秋。蕭々白髮已盈頭。乾坤有恨家何在。

江漢無情水自流。長樂宮中雲氣散。朝元閣上雨聲收。

新蒲細柳年年綠。野老吞聲哭未休。

そと吟するに人として。子載の恨わらまじ。帝長命を。激程

仁家の支那と摩く。英宗正統六年。自西より。帝と

帝と同定の信あり。今よ。帝は。初年より。帝

も。帝と。帝の詩を。建文帝と稱す。

建文帝と稱す。建文帝と稱す。

懐と度世俗よりわらふもやよはくやうやくとやあそとくを

プゆるき。

水邊楊柳緑煙絲立馬煩君折一枝唯有春風最相惜

慇懃更向手中吹

あま唐の楊巨源の楊柳の侍やまにげ之口の句を焼ゆては

とくは是侍のよまて其をさし氣のよりの勢

やまてゆぐら然や折きまを折のそ折一枝とあそ春風

楊柳のくよまてまてまやまを離まてらやう春風つそまよ

そやてゆまがまいよまや折まてまやまを折平とま

やうておまてゆま吹てまいとままてまてまてまてまて

士の墓を襲存亡せとくらや之ぬよまてまてまてまて

墓を襲存亡せとくらや之ぬよまてまてまてまて

ちやよわすしと平字筆同く。曰く流鏡の魁偉やうと見て。已
 らば流鏡はせまなりと云ひ。頼政の親戚やうと云ひ。流鏡は
 平にちの多し鏡ひと云ふ。於て流鏡と云うて。波羅の事と
 人志く。大さ節をけ。事さく。あ。字。盛。對。合。し。く。汝。今。よ。る。我。よ。つ
 之。心。邊。の。息。中。ら。ま。り。わ。こ。さ。く。小。槽。毛。こ。う。馬。は。貝。鞍。を。き。ま。
 之の料とく。ま。山。と。い。う。馬。を。引。と。く。ま。つ。と。ま。つ。の。よ。流。鏡。曾。ま。
 皆具し。て。多。し。鏡。ひ。と。云。ふ。事。を。流。鏡。ひ。と。云。ふ。事。を。流。鏡。ひ。
 くと。流。鏡。ひ。と。云。ふ。事。を。流。鏡。ひ。と。云。ふ。事。を。流。鏡。ひ。と。云。ふ。事。を。流。鏡。ひ。
 流。鏡。ひ。と。云。ふ。事。を。流。鏡。ひ。と。云。ふ。事。を。流。鏡。ひ。と。云。ふ。事。を。流。鏡。ひ。
 多。し。鏡。ひ。と。云。ふ。事。を。流。鏡。ひ。と。云。ふ。事。を。流。鏡。ひ。と。云。ふ。事。を。流。鏡。ひ。

昔もわきはあけ。け。わ。く。わ。き。う。と。い。う。事。流。鏡。ひ。と。云。ふ。事。を。流。鏡。ひ。
 下。わ。ら。び。と。く。字。筆。下。の。多。し。鏡。ひ。と。云。ふ。事。を。流。鏡。ひ。と。云。ふ。事。を。流。鏡。ひ。

老尼^{らに}信^{しん}也^えを乞^こく死^しと救^{すけ}ひせり。其^{その}時^{とき}宗^{そう}法^{ぽう}頼^{らい}朝^{てう}と初^{はつ}夕^{しゆ}は、
とてさす。ふ。平^{へい}家^け死^し因^{いん}家^け一^{いつ}時^{とき}頼^{らい}朝^{てう}とて頼^{らい}朝^{てう}と通^{つう}同^{どう}
て。殊^{こと}をたてり。と。とせしめ行^いふ。頼^{らい}朝^{てう}二^に夜^よて終^まる。あはる
其^{その}後^{のち}平^{へい}家^け、あは七^{しち}ひまゝて西^{せい}海^{かい}はわす。時^{とき}頼^{らい}朝^{てう}舊^{きう}恩^{おん}の謝^{あま}
其^{その}あはに頼^{らい}朝^{てう}と鎌^{かま}倉^{くら}は招^{まね}き。ふ。宗^{そう}法^{ぽう}と必^{かなら}ず具^ぐせ。子^こ
魚^{いさな}き。あ。と。し。の。れ。あ。さ。さ。ふ。六^{ろく}。頼^{らい}朝^{てう}と車^{くるま}は劫^{やく}と。と。宗^{そう}法^{ぽう}
ふ。け。は。さ。う。へ。下^{した}。死^しと。し。ひ。り。ふ。宗^{そう}法^{ぽう}の。あ。ひ。ら。頼^{らい}朝^{てう}其^{その}ま。下^{した}
ま。と。ゆ。ら。さ。う。て。昔^{むかし}の。や。う。と。と。さ。ひ。し。て。平^{へい}頼^{らい}朝^{てう}の。物^{もの}や。さ。う。
て。その。ま。枝^{えだ}助^{すけ}せ。う。方^{かた}と。頼^{らい}朝^{てう}と。の。事^{こと}を。わ。り。く。い。ふ。今^{いま}宗^{そう}法^{ぽう}
と。頼^{らい}朝^{てう}。其^{その}後^{のち}は。う。さ。う。と。な。ん。と。西^{せい}海^{かい}は。わ。り。の。友^{とも}と。の。あ。ら。わ。り。と。

に備あそひ。君々如て。教よ。河^か案^{あん}堵^と。お。は。り。あ。い。と。い。ひ。
門々。西^{せい}海^{かい}は。流^{なが}る。日^ひ米^{まい}や。す。と。い。ひ。と。わ。り。く。

てその^{ふと}技^た物^{ぶつ}せし方^{かた}と執^とせんもの事^{こと}おきわくく^くい^い今^{いま}之^{これ}深^{ふか}く
編^{へん}ひて其^{その}意^いを^をと^とん^んと^と西^{せい}海^{かい}に^にお^おの^の朋^{とも}友^{とも}を^をの^の事^{こと}を^を

に情^{じやう}あそ^そひ^ひを^をと^とり^りか^かて^て教^{しやう}に^に案^{あん}堵^こし^しお^おは^はし^しめ^めし^して^て一^い
門^{もん}に^にお^おも^もて^て西^{せい}海^{かい}に^に流^{りゅう}る^るに^に始^{はじめ}り^り日^{にっ}和^わや^やす^すき^きに^にお^おも^もて^てわ^わら^らう^う
い^いあ^あそ^そひ^ひを^をと^とり^りか^かて^て一^いに^に案^{あん}堵^こし^しめ^めし^して^て一^い
頼^{らい}朝^{てう}某^{けい}子^しと^とる^るに^に違^{ちが}ひ^ひを^をお^おゆ^ゆし^して^てお^おも^もて^てわ^わら^らう^う
後^ご世^せに^にま^まる^るに^に始^{はじめ}り^り日^{にっ}和^わや^やす^すき^きに^にお^おも^もて^てわ^わら^らう^う
其^{その}後^ご西^{せい}海^{かい}に^に下^{くだ}り^りて^て一^いに^に案^{あん}堵^こし^しめ^めし^して^て一^い
頼^{らい}朝^{てう}伊^い豆^{てう}に^に流^{りゅう}謫^{たく}の^の時^{とき}に^に始^{はじめ}り^り日^{にっ}和^わや^やす^すき^きに^にお^おも^もて^てわ^わら^らう^う
後^ご世^せに^にま^まる^るに^に始^{はじめ}り^り日^{にっ}和^わや^やす^すき^きに^にお^おも^もて^てわ^わら^らう^う
其^{その}後^ご西^{せい}海^{かい}に^に下^{くだ}り^りて^て一^いに^に案^{あん}堵^こし^しめ^めし^して^て一^い
其^{その}男^{おとこ}と^と殺^{ころ}す^すに^に始^{はじめ}り^り日^{にっ}和^わや^やす^すき^きに^にお^おも^もて^てわ^わら^らう^う

東... 卷... 一三二

頼朝と好くも護り。ひそひその進言を志す。其後頼朝
 兵と起し七伊豆より相摸へ赴く時。祐親宇家のもとよりして大
 庭景親等と石橋のいふ所にて頼朝と進言を志す。其後頼朝
 自ら東国平定し。自ら大兵を率て後河を治りし
 時。祐親と相搦りて。いと其罪を決す。祐親と其祐親の婿
 三浦義澄は。祐朝と。祐清と。りて。祐貴と。りて。祐
 正と。祐清は。河内國中を治りて。殺す。其父因を志す。其子祐貴
 せしむ。は。や。ゆ。と。一。家。と。殺。す。八。子。を。殺。す。一。と。い。ふ。事。
 こと。は。と。く。我。と。救。ひ。一。若。と。殺。す。き。や。い。ふ。と。く。は。あ。り。て。
 縁。ら。や。も。き。ま。祐。清。を。ま。よ。り。す。く。に。名。前。は。大。井。子。と。く。平。家。に

屬。後。禰。平。其。合。我。は。は。な。討。死。と。り。け。き。ま。け。之。人。時。代。も
 大。了。同。く。志。貴。も。相。似。と。り。その。法。以。高。義。源。平。の。名。を。求。る

跡中々討死の事此多々見ゆゆにや同考るに一人も是の以て
 して我聞ては惜き事これに敢てしとくも死せん余亦如と
 つゆさく心弱し自善せんとも百餘誘と相従ふやこの
 わく赴くことおもて誓とやうとくさくも奇廉かつじ
 大度高牆忽は灰燼とやうゆゆの聖考感慨は長
 涙とすく惘然として立多れ更彼文とくす事やぬ是を披
 きん金六録倉の事子海今とくとしてく聖とゆいんりも
 考くしあふんれか足がよとくも中宮むくしとわく聖考是
 とんふ大なる色と扱して中んれとく是今あくる思ふは
 考く人し考くあふん今事の事るに降く階人よ考ていお

八あ宣せ耻ぢと考く多め若といんやさ美六女性の中く事いん
 の事とらうとも義貞勇士の義と考く事いん事やふと別

と刀をいぢりて色を折して中へ入れたるは今あるを思ふは
あつて人よりあつてあつて今事の事なるに降く。隊人よあつてあつ

八あ宣えい耻ぢと云ふ多岐若といはんや。さき六女性の中へ事あるを
の事と云ふとも。義貞勇士の義と志とをばらさずや。五三と別
せらるる。又義貞あつての件きよ名なと試しじりてあつてと
も。おの方へ我うては使の名を失う。や。思ふ事六がく。と。距きよる
る。只。似る。と。委あと。り。た。く。ま。や。一。行。と。く。し。一。行。ハ。怒
下。使。使。の。刀。を。帯。中。く。其。文。と。刀。よ。奉。ま。さ。如。く。腹。を。き。切。く。死。は。け
子。鳴。呼。聖。秀。い。ふ。や。以。人。も。や。義。氣。の。勇。壯。志。操。の。潔。白。を。に
る。と。あ。つ。た。や。中。の。あ。つ。て。と。代。中。く。と。武。田。務。頼。の。長。小。宮
山。内。孫。の。長。義。と。最。感。嘆。す。る。に。竹。と。わ。さ。内。孫。六。務。頼。を。乃
の。長。と。あ。つ。た。天。正。年。中。の。事。也。内。孫。人。と。年。部。一。等。に

事わらうが。勝頼説入の云ともいひ。内務之不忠は法一
 の内務罪やしてさう。逐て予を奪ふ事あり。経よ。此の意に
 執る。一々。教月を給ふ。織田の兵甲列は。此个々。勝頼敗
 ち。故府ととく。温井常陸父ととく。誤甲二入の兵と云
 月甲は。奔るとき。一。内務身ととく。赴急。一。道中
 追付。さき。内務と多ひ。若。若。説せ。若。同き。な
 へ。逃去ぬ。一。内務慷慨。一。この人。よ。い
 へ。若。家。の。ひ。す。て。棄。今。若。死。其
 若。的。指。す。は。似。又。死。一。長。の。義。と。や。ゆ。一。若。的
 を。指。す。も。長。の。義。と。儀。一。と。て。二十。人。一。回。一。回。難。一。殉。死

公。あ。は。難。一。甲。列。の。士。皆。勝。頼。と。秘。一。逃。去。一。に。軍。二。人。一。を。一。
 傾。覆。流。離。の。方。は。は。ま。す。て。一。さ。う。二。人。一。を。一。回。難。一。殉。死

又七希、あゝ弱女がまゝに、完内指の忠義と感し、思ふより
て、なき職と令せ、こゝろと意おもて、死せらるゝ、死後
のめ、い、忠義の駿とす。

忠のまゝに
烈女種なり

翁むり、加賀にわろし、時おひ人のつひ、小おまゝ人の徳悪、小
よろし、政おぬき、世よつひ、つひわろし、舊熱ら、あゝも、疾中、世
争、政おぬき、世よつひ、つひわろし、舊熱ら、あゝも、疾中、世
疾中、世よつひ、つひわろし、舊熱ら、あゝも、疾中、世
て、つ生の癖とや、其人が、あゝも、疾中、世
あゝも、疾中、世よつひ、つひわろし、舊熱ら、あゝも、疾中、世

うせて、あゝも、疾中、世よつひ、つひわろし、舊熱ら、あゝも、疾中、世
あゝも、疾中、世よつひ、つひわろし、舊熱ら、あゝも、疾中、世

て一生の癖とやまらば。其人なうくすてなぬる。去るは士の
妻よはまう。若中ら男女ともは幼およる。其義のまじと幸にひき

てせて。ちまじはあしき事じやをせぬ事やをせぬ事やすぬ
婦人よ柔順とやほして剛健と作らす。とらひやす。士の婦
女とて。ハハ二姉とやうく。とらひやす。とらひやす。とらひやす。
ちりして節義とやわらけ。日下後の婦行も。とらひやす。とらひやす。
衛の共姜と始とて。歴代貞節の女母よ絶せぬ。漢の陳孝婦魏
の令女まじの事よ。米子の小字此書も載る。とらひやす。とらひやす。
そまじはまじ。とらひやす。とらひやす。とらひやす。とらひやす。
冥々あやふ情行とらひやす。とらひやす。とらひやす。とらひやす。とらひやす。
易心とらひやす。とらひやす。とらひやす。とらひやす。とらひやす。
訓とらひやす。とらひやす。とらひやす。とらひやす。とらひやす。

一三三
一六六

其は相叶ひ多きハ元を以て之きや、南子ハ是は見
 識ちきわすす、淫行えんこうわすす、とて罪つみはしく是ゆき、古く又また夫つま中なかつをゆき、自ら世よすくも多し、倭漢やまがたは似にたり、わ
 下した漢かんの平帝へいていは皇后くわうごうを、莽まうの女むすめを、父ちち莽まう漢かんの長ながとして、天
 下したを奪うばひ、帝ていを殺ころせし、かく狂くるわく漢兵かんへい起たり、莽まうを攻滅せうめつし、
 て、皇后くわうごう宮廟きうびうに火ひのきり、我われは其その面目めんぼくを、漢兵かんへい
 見えんやと、自ら自みづから火ひを投なげし、い、我われは其その面目めんぼくを、我われは其その面目めんぼくを、
 長岡ながおか越こへ、忠貞ちゆうしんの夫人ふじん明智みさち光秀こうしゅうの女むすめを、父ちち光秀こうしゅう
 織田おだ信長のぶながの長ながとして、信長のぶなが父子ふじを殺ころし、其その後のち羽柴はしばし秀吉ひでよし西國せいこく
 より軍いと還かへり、光秀こうしゅうを滅めつし、其その後のち関原せきがはらの戦いくさ、忠貞ちゆうしん大軍たいぐん

下した関原せきがはらの戦いくさ、其その終つひは石田いしだの兵へい忠貞ちゆうしんの後のちより、
 夫人ふじんとて、其その女むすめを、其その夫人ふじんの、夫つま家のいへ辱はぢめ

未だのまか
 織田信長のほめてて、信長父子を弒し、つねと羽柴秀吉、西國
 より軍を還し、て光秀を滅し、ぬ其後関原の戦ひ、忠貞大軍

上受く、國事ありきとせり。其終る石田の兵、忠貞の被るはありき。
 夫人とて、つとめをなすけり。夫人とて、命を惜み、夫家の辱を
 貶す。敵のつとめをなす。月殺し、果死せしむ。其
 義とて、やまを、あまの土、山原、孫河小石、見、信、火、と、ひ、て、
 お、あ、ら、ひ、と、獲、と、さ、り、何、の、局、と、い、ひ、女、房、其、外、三、口、人、を、い、は、せ、ぬ。
 火、中、よ、り、入、り、死、せ、ぬ。今、又、お、く、世、よ、り、つ、ら、ち、く、い、さ、き、と、ま、す。
 あ、そ、い、ひ、傳、へ、つ、ら、か、ら、大、逆、臣、の、女、よ、う、を、貞、烈、の、人、を、い、は、し、ぬ。
 中、よ、り、載、と、り、せ、ぬ。孝、平、皇、后、よ、り、あ、ら、ぬ、く、い、ぬ。其、外、よ、り、
 倭、漢、と、も、い、ぬ、く、類、や、ま、す、や、る、を、さ、す、と、い、ハ、名、ぬ、よ、種、や、り、こ
 中、つ、ら、い、前、と、烈、女、よ、り、種、や、り、と、い、ぬ、と、い、ハ、神、を、い、ぬ

貞烈の事
 貞烈の事

客イやその種ハなきハもハあハいハれハくハ一ハけハ義ハのハ心ハにハ義
のハ性ハとハ種ハとハてハまハいハひハ性ハやハしてハ氣ハのハをハ去ハるハとハいハひハ
物ハやハくハけハりハ或ハもハ簪ハ刀ハのハとハもハ丈夫ハやハあハりハ婦ハ女ハもハハハなくハ或ハ
威ハ儀ハのハとハもハ良ハ家ハもハハハあハりハ早ハ族ハやハ多ハるハとハいハひハあハりハ
ひハ今ハ本ハ性ハとハ種ハとハてハ生ハずハるハ故ハもハ父ハ祖ハもハあハりハ世ハ類ハも
もハ子ハ孫ハもハ吾ハ人ハのハ子ハ也ハ也ハ吾ハ人ハのハ子ハ也ハ也ハ吾ハ人ハのハ子ハ也ハ
女ハ貴ハ賤ハもハあハりハ父ハ祖ハ親ハ戚ハもハあハりハとハいハひハ翁ハ翁ハ
おハ感ハしてハ是ハのハ端ハのハ端ハもハ也ハ翁ハ翁ハ人ハ類ハのハ種ハあハりハ
とハ知ハくハ天ハ性ハのハ種ハあハりハとハいハひハとハいハひハとハいハひハ
婦ハ女ハもハ早ハ賤ハ又ハ節ハ義ハのハ行ハあハりハ甄ハ揚ハしてハ本ハ性ハ天ハ性ハ乃

種ハあハりハとハいハひハ又ハもハ下ハ賤ハのハ行ハあハりハ婦ハ女ハ等ハもハさハらハすハ義
のハ行ハあハりハとハいハひハとハいハひハとハいハひハ

鶴つらも世に遠きやゆりも遠きは頼朝との鶴と見ゆるやとて鶴つら
鳥の初はつもはらむらむられ静しずんききすことありて再また之こゝろ静しずか
らまとも志ぬく令せらまうへんやまかて衆しゆもそれ物
静しずか必かなら祝いわ禱はらとて唱なめやそれ
はれよてハかりて

志しや三さん條じょう一いつ條じょうのまゝとてありて昔むかしのよはなり
あり又またとて一いつ條じょうありて

吉野よしの山やまの白しろ宮みやゆきとてけく入いり人のわきをききと
あやしくもまじは頼朝より怒いかる今のまじは時世ときよを祝いわとて
ふも秘逆ひさかの義経よしかとてふも奇怪きかいやるとてふも罪つとも

處ところせしむるくもとて夫人ふじん政子まさこのまじらむとて静しず
かまじ帯おびもせしむるも静しずかまじ

予の如く老をば頼の如く。今の事やまは。時世を祝ふ
ふ。叛逆の義理と云ふ事。奇怪やると云ふ事。罪も

處せしむるに。夫人政子の。此らや。事跡小の。静
そ。草芥とも。世に。終る。於。生母。此。源
して。事。事。事。威。揚。其。屈
世。始。終。志。多。義。作。負。高。彼。殉。死。一
軍。事。好。事。一。事。の。貴。一。系。原。の。醇。儒。中。村。揚。斎。の
撰。ひ。一。と。や。子。倭。漢。貞。烈。の。女。史。載。一。水。鏡。と。題。せ。し。書。に。
是。と。の。然。し。公。の。也。遺。恨。や。る。事。也。静。燭。家。よ。ま。ま。と。か
不。多。し。一。と。云。ふ。事。也。一。と。云。ふ。事。也。一。と。云。ふ。事。也。一。と。云。ふ。事。也。
禪。と。の。た。め。と。云。ふ。事。也。一。と。云。ふ。事。也。一。と。云。ふ。事。也。一。と。云。ふ。事。也。
思。ひ。行。ふ。今。是。も。一。と。云。ふ。事。也。一。と。云。ふ。事。也。一。と。云。ふ。事。也。一。と。云。ふ。事。也。
采。封。采。菲。

二七

無以下體の謂也。

澤橋の母

加賀の前田家も。母は八丈嶋浮回家の子孫のときや、資用
の多し。小金幾星丹茶幾包。其外瑣細の物件定数ありて
月給のとき、公家此官吏よりけりて、八丈の嶋にませり。此翁が父
よりけり。其いふとき故先より同は沢橋長太夫といふ。其いふとき起り
多し。其いふとき豊長右衛門の時。前田家の先祖大納言利家よりけり。
大同養女とす。浮回家の嫁とす。是秀家の夫人なり。其いふに
是長年中、関原師散りて後、秀家石田方の渠魁多し。其
死罪と處せり。其いふとき、其嶋津家の元京よりけり。其いふに死

等と減り。秀家并其子八丈八丈の物之竊逐せり。其いふに

八丈の乳母あり。其いふとき、其いふに逃去り。其いふに其外の女房。其いふに

へはけりしと。命下りし。女房隈すくよけりし。秀家父
 子より書きて。遣ふ赴き居り。其時之威よけりし。子と抱き。浮田家
 の夫人のきやう事。自ら八帝の曹子の所す。彼りいふ。けりし
 此八帝のけりし。遣ふ事。此八帝の曹子の所す。彼りいふ。けりし
 御側の人へ。けりし。遣ふ事。此八帝の曹子の所す。彼りいふ。けりし
 するぬ。夫人其子。常に膝下よ。けりし。遣ふ事。此八帝の曹子の所す。彼りいふ。けりし
 象子八帝の先途。見居り。若し。遣ふ事。此八帝の曹子の所す。彼りいふ。けりし
 争ひ。此八帝の先途。見居り。若し。遣ふ事。此八帝の曹子の所す。彼りいふ。けりし
 若し。遣ふ事。此八帝の先途。見居り。若し。遣ふ事。此八帝の曹子の所す。彼りいふ。けりし
 又。遣ふ事。此八帝の先途。見居り。若し。遣ふ事。此八帝の曹子の所す。彼りいふ。けりし

加賀國人史人と稱して。彼君と。遣ふ事。此八帝の先途。見居り。若し。遣ふ事。此八帝の曹子の所す。彼りいふ。けりし
 也。夫人在母の時。彼君と。遣ふ事。此八帝の先途。見居り。若し。遣ふ事。此八帝の曹子の所す。彼りいふ。けりし

若しつわてきんちり氏を以て橋をくわす以て夫人後世を祀
又約王苗裔家より依りおはせし。秀家備前守の國守をたすに

よきとく。加賀國人史人と稱して佐幕君と云ふ其墓加賀に
あり。夫人在世の時波橋氏の子成長あり。仕へき程よきあり。六。本國
多し。はるくやうにゆき付託せしむ。八。彼家まで可願給ふ。
以橋兵太夫に。と名をたす。多くめ書母の事とて思ひく
流とあり。多し。い。程なき道世の於あり。や。國とて
形とて。傍とて。い。け。よ。わ。と。り。米。と。さ。さ。り。は。ふ。
元和の了後おのわすん。

將軍家清と落わす。二條の御城へ入せし。あ。時。ひ。と。の。信。は
駕輿ち。新。状。と。稱。せ。し。信。佐。の。中。よ。す。指。へ。ん。と。き。の
さ。り。あ。り。程。よ。耐。く。す。ん。と。一。は。れ。と。波。輿。の。内。よ。り。は。後。也。

加賀國史記卷之十一

喻わすはまともいけ合すはるとま雨後思ひ切あけあけ穴色あけやまよと
中其志を不便におぼしめさるゝもたのこし大衆もさるゝは

けこそさるゝもたのこし大衆はよあはれくわのせらるゝもたのこし大衆はよ
ア母より一はさるゝもたのこし大衆はよあはれくわのせらるゝもたのこし大衆はよ
いまは兵を更すやいわさるゝもたのこし大衆はよあはれくわのせらるゝもたのこし大衆はよ
ゆく取引はすゝもたのこし大衆はよあはれくわのせらるゝもたのこし大衆はよ
かきくけこそさるゝもたのこし大衆はよあはれくわのせらるゝもたのこし大衆はよ
よ腹多し我汝のこゝ家の時取の足途をいんそんそんよとく奉
おとつげさるゝもたのこし大衆はよあはれくわのせらるゝもたのこし大衆はよ
ひゆるまきやいわけいんそんそんよとく奉
いゆゑ逆着も及すといひあゝあゝ官吏兵大夫と公こん歴入
りよせそはれはれもたのこし大衆はよあはれくわのせらるゝもたのこし大衆はよ

徳川家康公御遺言

夫ととく萬來の事を勤う奉じ奉る。至誠の致す事とす
角。ゆゑに是程の事と加堅ゆく事。今と何法す人とも稀な
ま。其名世よむとまはりて堪へし。口惜少ぶと上の沢仁
改ら勿論の事とす。よく下情と成る。早賤の義と成るた
てや。まゝとす。と。故と成る。心。義は事やま。

御祖刻の事とく。御家元氣と成る。この思く。よくや。もあ
死ん。浅智短意の及。三たわ。以。

天野之命之傳

他日。徳客。身會。せ。に。前。の。事。と。昔。田。古。義。の。事。と
し。の。け。ら。但。節。義。と。事。變。よ。う。と。く。わ。く。と。ま。ま。の。り。正。長。公。事

の。時。と。く。い。ち。く。廉。潔。耿。女。の。士。と。世。よ。貴。多。也。き。ね。ゆ。え。に。官
職。に。任。じ。と。ま。六。必。成。績。と。い。ふ。事。變。よ。あ。ら。む。必。節。義。と。わ。ら

他日^{たごつ}終^つく徳^{とく}容^{よう}身^み會^あせしに^に前^{まへ}つ^つる^るも^も昔^{むかし}日^ひ若^{わか}き^きの^の事^{こと}と
し^しの^の節^{せつ}義^ぎと^と事^{こと}變^{へん}よ^よる^るも^もわ^わく^くと^とも^もな^なり^りし^しに^に正^{ただ}居^ゐる^る

の時^{とき}中^{ちゆう}く^くい^いく^く廉^{れん}潔^{けつ}耿^{こう}々^々の^の士^しや^やと^と世^よは^は貴^き也^{なり}き^き也^{なり}ゆ^ゆえ^えの^の官^{くわん}
職^{しやく}は^は任^{にん}を^を必^{かならず}以^{もつて}績^{せき}と^とし^し。幸^{さい}變^{へん}は^はお^おも^も必^{かならず}節^{せつ}義^ぎと^とわ^わら
る^る。常^{じょう}變^{へん}と^とも^も同^{どう}家^けの^の事^{こと}は^はま^また^たあ^あら^らず^ずも^も智^ち勇^{ゆう}わ^わら^らひ^ひ
つ^つ入^いる^る職^{しやく}は^は任^{にん}して^{して}ハ^ハ一^{いつ}と^と用^{もち}よ^よら^らる^るも^もあ^あら^らず^ずも^も。諸^{しよ}司^しの^の職^{しやく}を^を命^{めい}ず^ずれ^れ
り^り。人^{ひと}々^々の^の廉^{れん}潔^{けつ}なる^る士^しを^を撰^{せん}て^てハ^ハ一^{いつ}と^と用^{もち}よ^よら^らる^るも^も。諸^{しよ}司^しは^は必^{かならず}
同^{どう}家^けわ^わら^らひ^ひ其^{その}心^{こころ}廉^{れん}潔^{けつ}なる^ると^とし^して^て指^{さし}威^いと^と會^あひ^ひす^す。又^{また}と^と名^なを^を同^{どう}家^け
に^にし^しめ^めば^ば相^あひ^ひす^すも^も必^{かならず}相^あひ^ひす^すの^のや^やる^るも^も。さ^さら^らに^に行^いは^はれ^れる^る
も^もあ^あら^らず^ずも^も。内^{うち}を^をま^まく^くわ^わら^らせ^せる^るも^も。さ^さら^らに^に友^{とも}知^ちも^も勇^{ゆう}も^も相^あ
あ^あら^らず^ずも^も。剛^{こう}も^も別^{べつ}と^とや^やる^るも^も。柔^{じゆう}も^も柔^{じゆう}と^とや^やる^るも^も。人^{ひと}々^々の^の會^あひ^ひす^する^る
も^も。先^{せん}格^{かく}と^とあ^あり^り後^{こう}雅^やと^とあ^あら^らず^ずも^も。裁^{さい}及^{およ}ぶ^ぶも^も。さ^さら^らに^にさ^さら^らに^にさ^さら^らに^に

後漢書 卷之三十三 四十四

圃を承におのく推多らあり強と乃今くさよまて法中たつと
強をゆてそつぬまもあひまきとじ永縁の二條

東照宮を河よのたやまこまて時決判法とまめらま高力ふ

た傍つ信長ふ多他たふを治天野と希き清康景とこまひよ

付らま甚く他輿人の談ふ佛高力鬼作たこらなんやう一乃

天世とる善徳といひとらまら魚んがうとた古遷就して

一決其の信依やまけ勝とゆく考らふ高力ハ多寛仁に

あて年多のわらまよままふんか多と多骨決して高

力の慈悲よのまを以て天世ハ高力の年多の裁りまそひん

やの多ら理治牙あてがうも巳とまてねた力ふのままは

之人とといへんうう廉潔あて奔競の心あつた同職よわん
其れも其れ又同職とあはるんも其れまの心はまはる

某に依り井を以て民のともおとす味せしむる事ハおろはせき行を
 盗し事多し。わがしぬわわをくんと康景のともをけりては
 清徳の民とあそびあして卒ある殺す事罪なる。速
 其足跡と傳へしきわうとつひやと云ふ。康景盗と殺すは
 古今の法やまらぬあそびとて罪とせん。其と加ふるは私に殺し
 二つあり。康景下知してあそびし事。そつひに誤りあは
 康景罪よりたるととく。少も許容の氣色やう。升りて其
 ましきとやとてきかづ民實を非とぬとす。公家此罪に
 くるゆきとて。康景已るは權は為擔して。殊せむらひの
 言とてさへ。康景のともと下知人かききあうは。從はむらひ

まも。茶のあそびしむらひけりては。

東照宮きまひりて。康景はあそび。不義の不意たるとは。

くつぬきり。と。康景已^つは^た程は^た何^た擔^たして。殊^た世^たより^たの^たり^た
言^たと^た一^た筆^たハ^た。康景^たの^たも^たと^た下^た手^た人^たの^た如^たき^たあり^た。佐^たと^たて^たり^た

ま^たも^た。茶^たの^たあ^たと^たく^たい^たく^たい^たけ^たり^た。

東照宮^たま^たあ^たり^たて。康景^たは^たあ^たと^たハ^た。不^た義^たの^た不^た慮^たあり^た。

と^たく^たと^た人^たの^たい^たき^た欺^たる^たを^たわ^たら^たん^た後^た日^たの^た河^た紀^た同^たあり^た。

實^た居^たと^た定^たり^たら^たん^たま^たの^たり^た佐^たと^たれ^た。ハ^た多^た上^た野^た女^た心^た純^たと^た

康景^た。も^たと^たけ^たハ^たま^たと^たく^た。あ^たと^たい^たけ^た事^た理^たなる^たと^たも^た。ハ^たあ^たい^た佐^た

あ^たと^たま^たあ^たり^たと^たく^た。其^た中^たは^た佐^たと^たれ^た。河^た威^た光^たも^た佐^たと^たれ^た。

す^たゆ^たぬ^た。二^た人^たの^た間^たと^たら^たせ^た。其^た内^た一^た人^たと^たわ^たら^たん^たと^たあ^たい^た若^たと^た殊^た

あ^たと^たま^たの^たり^た。心^た純^たと^たら^たん^た。ハ^た河^た威^た光^た佐^たと^たれ^たと^たわ^たら^たん^た

ハ^たと^たく^たと^たら^たん^た及^たと^たれ^たと^たく^た。河^た紀^た同^たあり^たと^たけ^たれ^た。

河^た紀^た同^たあり^たと^たの^た如^たき^た。我^た身^たと^たま^たと^た。勇^た士^たの^た如^たき^た。

康景^たの^た如^たき^た。四^た六^た

善哉や潔白なる哉と。世は多にわが如きのや。寛承山原の
 了徳のわが如き人。其の天徳寺境内へ。ときき寺に常念佛
 とく常念を念佛と唱へるわが如き。わが如き。後徳外
 へおとて。凡そ六族人と。凡そ他宗は。之頭よ。其の後
 也。一。いぬ人の。おと多す。わが如き。や。久しくして。後
 ち。ち。ち。わが如き。た。位。持。わが如き。凡そ。何人。も。肉。入
 て。た。ま。は。は。と。い。は。其。人。の。心。の。念。佛。の。智。と。は。佛。の
 心。の。智。と。い。は。時。を。持。て。持。た。る。や。た。た。た。茶。の。の。の。の。
 所。と。い。は。肉。入。ぬ。位。持。て。持。た。る。と。い。は。持。た。る。と。い。は。や
 と。同。心。を。持。た。其。の。真。列。過。を。か。ら。若。く。は。い。は。た。ま。ひ。て。初。め。

若の如く。色く。形。多。事。と。い。は。も。年。々。も。ま。ま。ち。く。い。は。其。人。の
 心。も。今。も。昔。も。中。に。は。外。に。は。よ。く。持。た。る。と。い。は。持。た。る。と。い。は。せ

の志をもちてなすべし。六、^{うんよう}官要の入るべきものありしを。其
 下はわが國之の^{たい}退休して居らるる人わたり。世は年あり
 とはゆふまじきも是と。常は傍よりよく^こ休むべき人ありは。
 徳源も厚く^{あり}個實のあり。歴々しく石抱へじと。為求^り禮儀
 といふ等の^{たん}禮儀の人のよくあり。また事とく。その人
 若くは^い心志をたてて。きやくとくも。某事奉去の原はかく
 今もかくも。すしとくも。すし^り禮儀の上は。くこ中^き益
 多くもいふべし。そ^いあゆく始く名字もあそき。まを八寺^りあり
 今中^りの若き^りは。さく^りあそき。んぞも。まを^り某と^り蒲生^り氏
 口の^{さい}あそき。結縁の^り何りと。若中^りは。蒲生^りの^り家^りの^りい^り

くま。他家は腕^りと^りい^りとに^りま^りあ^りる。乞食^りの^りわ^りり^りと^り生
 とお^りけ^りり^りた^りる^りま^りと^り是^り格^りに^りく^りけ^りる^り存^り知^りも^りう^りけ^り

かのやうの君とほしくおぼえざるを以て某と南生氏
との事なく。結縁の何れかと申す中々此南生の家を以て

くまも他家は腕と云ふにまぬらう。乞食御くわすとも生
とあはれく行儀たふをまくと是格に〜ゆけらう。存知も〜に
孝の所恩〜ゆきも。今々多くは恩とて報〜ゆ〜とて。
九戸合戦の時。其御も〜氏〜多〜感んたう。其後南生滅
びく方々諸侯あまより招〜書物も五紙。在申の人〜を
了。〜や〜も〜利の〜の〜と〜。火中〜焼す〜き〜と〜
て年月と経〜程は明曆丁酉の〜。江戸中大老や〜天徳も
処ま焼〜也。結縁多〜基〜ま〜。母〜と〜と〜。私事〜と〜め
成儀とも立の。せ。ウ。身ひ〜を〜結〜了〜。け。り。は。
佛像佛經ぶつぞう其外法及〜ひ〜もの〜。たのけ〜せ〜後と

後徳川紀 卷之三 四九

新編 御成吉思汗 卷之三

四七

とも思ひのころとすもなり。汝等ものさしとく。下を男あはと
 もとせしむのりせりあさく大燧毎中つら。堂間の燧わとに
 一人凝然^{くろえ}として手を措^はけ。結跏^{くわ}趺坐^{ふま}して。焚死^{やかし}とてお受け
 すと。又も六つ此結跏^{くわ}趺坐^{ふま}をす。牛の上。海とわう。あはと
 わりとも。結跏^{くわ}趺坐^{ふま}はきく寺のこけらひとわのり。今余見
 と。心かきすに。おとひ。いとも久しく。奇れ恩とて。公の
 おもさく。今て。此恩と報く。とて。くもわら。とて。おひ
 ぶ。孝火^{しんぱ}坐^ざす。智く。寺に。およ。牙とす。く。一。つ。と。此。奉。云。せ。一。種
 ぶ。と。と。や。え。と。く。と。おひ。く。く。く。自。く。六。禁。死。ゆ。ら。ぬ。其。心。成
 思。ひ。や。あ。ぶ。よ。ま。さ。く。是。信。る。又。ち。我。了。後。一人。の。獨。り。の。士

おも。翁。わ。我。時。世。は。海。流。せ。し。ま。な。り。阿。如。故。置。後。も。忠。結。の
 家。も。物。類。を。け。り。若。の。う。姓。名。若。今。忘。と。多。事。い。は。そ

よきとやきよくとおひくしそ自にハ禁死ゆらぬ其心成
思しやまよふはまよふは是れなり又ち。我丁後。一人の福の士

わす。翁の。我時世は治せしまを。阿弥故豊後忠社
家子。物類をけり。若の。姓名片今忘と多。信そ
子細わらぬ也。忠社。いよ。女立。江戸。八丁。中。町。の。家。屋
と。り。く。信。長。一。年。と。知。り。よ。き。い。の。貧。困。し。て。糧。と
信。長。信。長。の。見。え。て。朝。夕。の。多。為。け。け。り。病。氣。に。き
い。か。し。く。お。め。て。お。も。お。と。や。り。ゆ。か。家。を。入。り。た。り。は。り
粥。や。や。の。の。の。を。せ。信。長。の。病。も。不。食。の。病。を。そ。し。と。し
辞。し。て。け。け。り。た。り。て。入。り。た。り。ね。や。に。せ。り。家。を。自。り
戸。外。の。病。を。得。き。り。よ。始。り。し。と。い。は。れ。の。後。と。い。ふ。も。な。り。
て。い。は。れ。の。病。の。よ。き。と。い。は。れ。た。り。と。破。り。肉。入。り。て。六。具

後... 卷之三

只櫃ぐいより多くあり。膝ひざの上より大巾と掃帚ほうしとすのこねとよも
 一枚ありありして終りきり。遺書一通あり。掃帚ほうしの根
 年來家々の恩と忘れぬりと書きあり。お寺のけり
 物あり。家々の宿代しゆくだいのいもこすありしてありしとけしと
 ぬれり。此とく遺書は令と添くあり。お寺のわたりて具足
 櫃ぐいの中より已の刻りすまのやくきん。襦じゆ一領いちりやう皆具みなぐあり。
 若令一枚のしをきり。大小のきりもゆりしとわれ皆金
 一の所のありあり。衣服と云く。おのといく。其外終令
 のものなり。百日中し合物と云く。わらわのしをきり。其
 ころもきりし。私と決し。ころ。何の所奉り。要り。おのこ。其

若の遺書のし。ゆきいし。しよのあり。わたり。後四
 忠秋もきり。きり。し。死し。おのこ。おのこ。

のまの世もつとやう。百日を合物とてあらはれんとて
つとまきけり私をく決し。この世の所奉は世にわかれん其

世の遺書のとくは法いふことよのまをくわてり後日
忠秋もききまきとてくしとて死にせぬよはふ依れまを
とてし世しとやう。世に依り依り常世のまをく
かゝるまよらさく。まらに或人はまをく野通^ヤお
まをくはまらし。掃津の国波の浦に老尼のまをく
造りかゝるまをく。まをくまをく。まをくまをく
まをく死にせぬ浪士まをく。今の世は常世といふこと
まをくまをく。まをく。まをく。まをく。まをく。まをく
世にまをく。まをく。まをく。まをく。まをく。まをく
まをく。まをく。まをく。まをく。まをく。まをく

彼は侍り人さやうにやけりて羨まむらむ。

二人の乞見

世世同と凡俗無く。利慾さうじきまとも人の性もや若
 かり程。族姓もよし。後やうはくもよし。乞食伴の若し
 もさうさうに教はるとまぬ心わらぬ。朱子（五六）小學書（五）
このころ、つひとまづてんとかいむつらと
 茂事（五）極天岡墜（一）といふ。位ありて誣（一）する事とてこれ
 とひ結とけし心におま保突印の歳は三月十七日。江戸寄
 の商人越後屋吉彦（一）といふ者。代布十布。徳方の買を
 の令徳なきゆゆし。今之格支入多。似儀心と心（一）さる取
 さうやく。墜あり。おさう。あぬものや。わねん。とさや。あるま。

さとら。おとひやう。とや。事。路。と。長。く。に。見。ひ。わ。く。程。
 あり。事。乞食。一人。わら。と。見。と。う。く。わ。り。あ。ぬ。は。と。と。一。金。

の令信なきゆゆし。今之振支入多似儀に心不足り取
さしめく塗やもさしめぬものやとわねん。さるやわらま一

まともなごひかり。ささやも路と長くに思ひわさく程。
おぬ事い食人わさし。思とつらくわらぬゆゆし。今
とたさるくやとゆさすやとつらげさして。市十部さす
とつらぬもの。信りさき凡てさる。象等指ひさく。此等
の多きひ。おぬ事とわらし。とささしとゆさく。ささき程さす
とささるく。ささく。程さる事。水さす。ささく。多し。ひかり。清
ゆるし。といふ。市十部令の真教まごう又と申す。わらぬ。院文すとのや。
一。いさき。のさしにささく。と報わり。とささ。おぬ。儀のよう。さ
清し。ささ。市十部。ゆゆし。ささ。とつら。わら。して。肉入。取。おぬ。
とささ。ささ。とさ。の。得。おぬ。ささ。ささ。とさ。わら。とさ。ささ。さ。

ぬきき、はらききとやうと出陣丹心と甄揚すれども吾位
の任ちるも今ゆれせし結露の何じと念八を常の類世よめ
多るも、氣のききぬら、せんききと、もさりに出陣丹心
我が勅撰の本歌集とんり、や、養生傍妓女のれし天子
云々名と別とれし、倭歌、尊卑対表別やう、そは倭歌
の体と、今、今、節義と治子と、良家名族の士、
と食やとと、垂く、垂く、垂く、垂く、垂く、垂く、垂く、垂く、
節義、貴賤の、節義、節義、節義、節義、節義、節義、節義、節義、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

駿止雑話卷三 畢

ときつれゆゑ、翁の教海不偏之と云ひ給ふ多し。此の書は、
 駿河野話卷二一畢

六常六倫名義

室鳩巢先生著 何の字付

全一冊

此書は六常六倫の源を委く述及、大學の條教を附録とし、
 明の書と明の書とを天に平らぐふを二十餘首中して儒教の旨
 樂行の巻末に病中の戲とあれは、
 亦仁政の尊き事を述べて是れ鳩巢先生の持論に、
 子治の故小酒字とて、教語との初学の徒として、
 先生とて、古人の小學の境より、
 耳に熟する時、
 然るに、
 心齋橋通北久太郎町

浪華書肆

河内屋喜兵衛

